

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 嶽陽会	代表者	三浦 隆	法人・ 事業所 の特徴	事業所の特色として、法人で行っている①「通院等移送サービス」、②「配食サービス」、③「在宅介護者教育」、④「災害時避難所」、⑤「トータルケアサービス」、⑥「嘱託医や協力医療機関との連携」の6つの機能を小規模多機能のサービスと組み合わせ、利用者やその介護者に対してより重層的なサービスを提供できる体制を確保している。
事業所名	生活多機能支援ホーム パインの雫	管理者	高杉 勇希		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	人	2人	1人	人	1人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①これまでの取組みやその過程を可視化し、話し合いの場になかった職員で分かるようする。また、異動してきた職員にも分かりやすいよう、目的や取組みを指導・掲示する。</p> <p>②地域ケア個別会議へ事例提出して取り上げてもらい、今後の支援に繋がるヒントを得ることで、サービスの質の向上を図る。</p> <p>③可能であれば、地域ケア個別会議へ職員を参加させてもらい、地域ケア会議について職員への周知を図る。(上半期・下半期それぞれ1名以上の参加が目標)</p>	<p>①事業所内へは掲示していたものの、管理者が異動してきた職員へ対して改善計画を指導・提示することを忘れており、キチンと対応することが出来ていなかった。</p> <p>②対応に悩んだ事例はあったものの、西部包括圏域では無かったため担当圏域の包括へ相談できず、結果として事例として提出することが無かった。</p> <p>③上期のみであったが、職員1名を地域ケア個別会議へ参加させることが出来た。</p>	<p>・昨年同様、各項目の具体的な改善計画を一人一人が理解し、達成に向かって取り組むことで一歩ずつ前進しているように感じます。</p> <p>・職員全員で取り組んで検討していくことが大事だと思います。</p> <p>・改善計画を立てても、色々な事情で実行・実施することが難しいこともあると思いますが、改善に向かって取り組むことは必要です。</p>	<p>①地域ケア個別会議へ参加することが出来ていない職員がまだ多くいるため、可能な限り参加してもらい、会議の内容や事業所が事例に対してどういった関わりが出来るか？を考えてもらう。</p> <p>②事業所の自己評価について、異動間もない職員へ項目の意味や解釈などを説明し参加してもらう。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>①呼び鈴の場所を外部の人により分かりやすく、目立つよう更に工夫する。</p> <p>②風除室内に、パインの森へ来客した方のための呼び鈴を検討してみる。</p>	<p>①貼り紙をこれまでより大きなものへ変更した。それで押す人は押すが、押さない人は押さなかった。</p> <p>②パインの森の中のドアを開けておくことを試しており、呼び鈴は置かないで様子を見ることとなった。</p>	<p>・インターホンについて掲示されていたので、分かり易かった。</p> <p>・コロナ過でもあったため、急に来所される方は少なかったのでは？来所される方が特定の方(家族や業者)であれば、今のままでも問題無いのではないかと。</p> <p>・玄関先で待っていると職員が駆け付けてくれたので、特に不便は感じなかった。</p>	<p>・今後はコロナの扱いが第5類に移行することで、これまでより来所される方が増えると予想されるため、インターホンが鳴った際にはすぐに玄関へ駆けつけるようにする。</p>
C. 事業所と地域のかかわり	<p>①保育園や児童館などを直接訪問しての交流は難しいと思われるため、敬老の日などを通じて、プレゼント(手工芸の作品など)を交換して交流を図れるよう計</p>	<p>①事業所の都合(職員の退職や異動、運営指導など)により、保育園や児童館などと交流を図る計画を立てることが出来なかった。</p> <p>②11/18に市内の小規模事業所が</p>	<p>・コロナ禍であっても交流を図る場を計画していたことは知っていますが、残念ながら中止になりました。波があったこともあり、仕方が無いことだと思います。</p>	<p>①小学校の運動会を見学するなど、直接的な交流以外の方法で地域との交流を図っていく。</p> <p>②小規模事業所間の情報交換会を開催し、他事業所においてどの</p>

	<p>画する。</p> <p>②他法人の小規模多機能ではどういった取り組みを行っているのか？電話や見学などを通じて確認し、零の取組みの参考にす</p>	<p>集まって情報交換を行う機会を予定している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の広報誌に関して、それを町内会で回覧して欲しいと依頼を受けて対応しました。そういった取り組みは今後も続けた方がいいと思いますし、依頼があれば協力します。 ・感染予防を重視するのであれば小さい子どもだけでは無く、中学生や高校生との交流も視野に入れてはどうでしょうか？例えば高校のボランティアサークルに来所してもらおうというのもいいかも知れません。 	<p>ような取り組みを行っているかを知り、今後の活動の参考としていく。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>①零での活動の様子を、利用者が気軽に見ることが出来るような工夫を行う。</p> <p>②選挙の際、投票へ行きたいという利用者（あくまでも一人暮らし、高齢者のみ世帯）へ声掛けし、支援する。</p> <p>③コロナ過ではあるが、外出や外食も含め企画し、可能であれば実施していく。</p>	<p>①活動記録（写真）を午後活動時に紹介するなどした。</p> <p>②一人暮らしや高齢者のみ世帯へ声掛けし、希望者には対応することが出来た。</p> <p>③ドライブ外出は実施することは出来たが、外食は実施することが難しかった。（食事となると感染リスクが高かったため）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ直接出向くことは困難な状況下にあります、利用者一人一人が地域との繋がりが持てる手段として、パインの零には通いサービスがあります。コロナ収束の目途が立たない現状では、その地域の利用者が集う自事業所内のイベントの充実化を図ることが重要かと考えます。 ・日頃の対応でも十分に利用者の日常生活を支援することが出来ていると思います。そのことに自信を持って、今後も業務を行って欲しいと思います。 ・選挙権は国民の権利なので、その支援を行ったということに関して、利用の権利を守ったと考えても良いと思います。なかなか支援できることでは無いと思います。 	<p>①通い利用者の気分転換が図れるような外出行事を計画し、可能であれば実施していく。</p> <p>②選挙の際、投票へ行きたいと希望する利用者への対応を行っていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>①会議の内容が参加していない職員にも分かるよう、会議後のミーティングなどで伝える。</p> <p>②書面会議の際はメールや FAXなどで質問を受け付け、それに対して返答するという双方向性のある会議を実施していく。</p>	<p>①推進会議の内容は翌日以降のミーティングで報告することが出来た。</p> <p>②推進会議が開催されなかった際は、後日資料を配布するのみで質問を受け付けるというところを行わなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の困りごとの意見はまだまだあると思いますが、それらを把握している包括や行政の方々が当会議に出席されていますので、事例をお話しいただける機会があれば、今後、事業者が地域と連携を図るうえで参考になるかと 	<ul style="list-style-type: none"> ・書面会議の際はメールや FAXなどで質問を受け付け、それに対して返答するという双方向性のある会議を実施していく。

			<p>思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場のかたが会議へ参加されており、その立場・視点から発言できていると思います。そういった意味でも様々なアイデアやアドバイスなどが出ており、課題を解決するためにも有意義な場となっているのではないだろうか？ 	
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>①福祉避難所について、基本的な部分を学ぶ機会を確保し、事業所の職員へ周知する。 ②事業所で行っている初動訓練の際、地震や水害なども想定し行う。</p>	<p>①口頭ではあるが、ミーティング終了後に一般避難所と福祉避難所の違いや対象者などの説明を行った。 ②職員がこういった情報を必要としているのか？のアンケートを実施し、簡単な内容はミーティングで伝えたが、それ以外（マニュアルや森と合同での勉強会など）は実施することが出来ていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に水害リスクは被害を受ける地域の特性によってそれぞれ異なるため、運営推進会議を活用し、地域の実情に詳しい町会関係者などとの意見交換を通して運営に反映できれば良いと思います。 ・訓練を繰り返し行うことにデメリットはありません。いざという時にスムーズに対処できるようにしておくことが大切だと思います。 ・事業所の所在地はハザードマップに指定されていないものの、だからと言って油断は出来ません。一町田地区には断層もありますので、そういったことも訓練計画を立てる際の参考にしてもらえればと思います。 	<p>①事業所の BCP 策定後、職員へ対して説明を行い、災害時の対応も確認する。 ②可能であれば事業所で行う避難訓練へ地域の消防団の方にも参加してもらい、日頃からの連携を図ることで災害発生時にも対応できる体制を構築する。</p>